

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称	
805	805	商工振興経費	01	01	一般会計	
基本施策	45	住む人にとって魅力ある商店・商店街をつくる	07	07	商工費	
			01	01	商工費	
			02	02	商工振興費	
担当部課名	青山支所産業建設課		細目	101	商工業振興経費	
作成者氏名	山内 敏	連絡先	52-3220	細々目	01	商工振興経費

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	伊賀市商工会	成果(どうなるのか)	特産品の啓発を行い、販路等の開拓を図る。
	本年度事業内容	伊賀市商工会に対する商工振興事業に対する補助。		
開始年度	平成	年度	終了年度	平成
		年度	根拠法令・要綱等	伊賀市補助金等交付規則

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.1	0.1	0.1
	人件費合計(A)	720	720	720
②支出内訳(千円)	事業費(B)	500	0	0
	委託料			
	補助金	500		
	その他			
合計(A+B)		1,220	720	720
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担 その他特財			
一般財源		1,220	720	720
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
特産品販売所の設置・開催	回	1	12	12			
チラシ作成	部	1000					

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
特産品販売所の設置・開催	本年度において販売所を設置した。これの活用回数が多いほど、特産品のPRが行なわれ、併せて販売量が増える。	人	1 目標 (6)	12	12
チラシ作成	特産品宣伝チラシを作成し、配布することで普及に繋がる。	部	1000 目標 ()		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

伊賀市商工会の会員の管内における状況は、阿保地区の商店街を中心に構成されているが、地場産業である林業が好転しない中、また、桐ヶ丘団地の人口の伸び悩み、消費者動向(隣接の名張市での購買流出)への対応など不振を続けている。しかしながら、郊外型に転換し、生鮮品に特化したJAの店舗は活況を呈している。このことは方向性を示すものと言えるため、新たな販売方法として駅前に朝市会場を設置した。今後、これを活用し継続的に市を開催すべく、商工会の活動に支援する。

評価	必要性	4	商工会は合併し、合理化に取り組んでいるが、それに伴い特徴であるキメの細かい活動が出来なくなっている。そのため、商工業者自身の自助努力が一層必要になってきている。今後においては、自らの知恵と工夫の如何で生き残りが図れる。これに対する支援事業の展開が必要。	総合評価 A
	有効性	3		
	達成度	4		
	効率性	3		